

第2回革新炭素繊維基盤技術開発中間評価検討会議事録

1. 日時 平成26年2月17日(月) 14:00~15:30
2. 場所 経済産業省本館17階 第5共用会議室
3. 出席者
 - (検討会委員) [敬称略・五十音順、※は座長]
 - 大松沢 明宏 日本化学繊維協会技術グループ主席部員
 - ※久保 司郎 摂南大学理工学部機械工学科教授／大阪大学名誉教授
／(一社)日本機械学会筆頭副会長
 - 永尾 陽典 神奈川工科大学大学院工学研究科教授
 - 林 直義 (株)本田技術研究所 社友
元(一財)日本自動車研究所理事
 - 丸山 正明 技術ジャーナリスト
 - (研究開発実施者)
 - 影山 和郎 東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻教授
 - 羽鳥 浩章 (独)産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門総括研究主幹
 - (事務局)
 - 尾畑 英格 製造産業局繊維課長補佐(技術担当)
 - 金澤 洋 製造産業局繊維課技術係長
 - 五十嵐 幸子 製造産業局繊維課行政事務研修員(技術担当)
 - 田中 伸彦 産業技術環境局研究開発課企画官
 - (評価推進課)
 - 加藤 二子 産業技術環境局技術評価室技術評価一係長
4. 配布資料
 - 資料1 第1回評価検討会議事録(案)
 - 資料2 評価報告書(案)
 - 参考資料1 経済産業省技術評価指針
 - 参考資料2 経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準
 - 参考資料3 平成23年度事前評価報告書(概要版)

5. 議事概要

(1) 第1回評価検討会議事録の確認について

事務局から資料1により第1回評価検討会議事録(案)の説明があり、議事録が了承された。

(2) 評価報告書(案)について

事務局から、資料2に基づき、革新炭素繊維基盤技術開発評価中間報告書(案)について説明が行われ、以下の審議の後、一部修正を行うこととして評価報告書(案)が承認された。なお、修正の確認など最終的な報告書の取りまとめについては座長一任で行うこととされた。

(丸山委員) 文章中に「官民」という表記があるが、最近は「産学官」との言い方が一般的であるように思うので、修正していただきたい。

(事務局) 修正する。

(永尾委員) 「炭素繊維の世界標準」との表記があるが、実際には試験方法等を標準化するものであると思うので「炭素繊維の評価の世界標準」としていただきたい。

(事務局) 修正する。併せて、世界標準を「とる」から「提案する」に修正する。

(大松沢委員) 「異形状断面を有する炭素繊維についても高いポテンシャルがある」とあるが、ポテンシャルは異形状化することによる高機能化にあるものと思うので、書きぶりを修正してはどうか。

(久保座長) 前回の説明で生産性向上に関しても言及があったと思うので、「機能性付与および生産性」にしてはいかがか。

(羽鳥P L) 製造プロセスの革新による生産性の向上もあるので、生産性の向上に加えて機能性が付与されるという書き方を望む。

(事務局) 「炭素繊維の生産性や新たな機能性付与に高いポテンシャルがある」と修正する。

(丸山委員) 「特許出願、成果発表件数からも積極的な活動がうかがえる」は、成果発表と特許出願は目的の違う活動であるので、横並びに表記するのはおかしいように思う。発表件数が多く、また知的財産の確保にも努めている、といった書きぶりがよいのではないか。

(事務局) 「論文発表の件数が多いことや、特許出願もあり知的財産確保も進められていることから、積極的な活動がうかがえる」に修正する。

(丸山委員) 「権利化を進められる体制も考慮しておく」は、現在も取り組みは行っていることから「体制を一層強化しておく必要がある」

としていただきたい。

(事務局) 修正する。

(丸山委員) 「関連企業から研究員が出向して本開発事業に協力しており」とあるが、参画の誤りではないか。

(事務局) 参画に修正する。

(丸山委員) 6. 総合評価の最後に「ヨーロッパや米国では」との記載があるが、炭素繊維はむしろ近年隣国での開発が活発かと思う。

(永尾委員) コンペティターを含む合同プロジェクトに関することを主旨としているので、欧米を挙げた。

(丸山委員) 今回は一事業に関する評価であるので、国家プロジェクトのあり方ではなく炭素繊維開発に特化して論じるのがよろしいのではないか。

(永尾委員) コンペティターとの合同プロジェクトとして、権利化などの問題を調整し乗り越えた経験ができたと思う。そのような経験を次に生かしていただきたい。

(丸山委員) その主旨であれば、中段の「事業終了後の成果の取扱い」は「事業終了後の知的財産とノウハウの取扱い」と修正してはどうか。

(事務局) 修正する。最後の段落は「競合各社が合同で参画した本プロジェクトの経験を次のプロジェクトに生かしてほしい」と修正する。

(事務局) 研究成果として、炭素繊維単体ではなく樹脂との複合材料としての性能も望まれると考える。複合材料のプロジェクトとの連携という、上流から下流への流れについても記載してはいかがかと思う。

(久保座長) 繊維の特性がそのまま複合材料になるものではないので、記載することでよろしいのではないか。

(事務局) 7. 今後の研究開発の方向等に関する提言の3点目にある「素材製造」を「素材製造・複合材料化」とし、「他のプロジェクトとの連携」との文言を盛り込むこととする。

(3) その他

事務局から、本評価検討会では了承された評価報告書(案)は、産業構造審議会産業技術環境分科会研究開発・評価小委員会評価ワーキンググループで審議され、了承を得た後、経済産業省ホームページで公開されるとの説明があった。

以上